

第7回全国弓道指導者研修会



参加者の技量にあわせて行われた目的別研修

第7回全国弓道指導者研修会(主催＝日本武道館・全日本弓道連盟、後援＝スポーツ庁)は2月15日～17日の3日間、千葉県勝浦市の日本武道館研修センターで、中学校高等学校教員を中心に82名が参加して行われた。

■1日目(2月15日)

開講式では、原田茂樹全日本弓道連盟事務局長が、中野秀也全日本弓道連盟会長の挨拶を代読した。「新学習指導要領においては、保健体育の武道として、学校や地域の実態に応じて種目が選択できるようになり、武道授業における複数種目の実践ができることとなります。連盟としても、弓道の授業実施に向けて支援を行っていききたい。参加される皆様は、指導者としていかにあるべきか、いかに指導をしていくかという視点に立ち、研修に臨んでいただきたい」。

続いて、三藤芳生日本武道館常任理事・事務局長が「来年度、スポーツ庁が外部指導者を活用した複数種目のモデル実践校の実施の事業と予算化を計画して、全国9ブロック27地域で順次実行されます。武道授業の実施状況は、柔道・剣道が9割を占めていますが、中学校武道必修化は新たなステージに入ります。弓道も各地域で実施される可能性が高いと思われれます。各都道府市区町村の弓道教室は大盛況であり、また、部活動も盛んです。本研修会で弓道の技量はもとより、指導力の向上、弓道の魅力をどのよ

うに伝えていくか、学習していただきたい」と挨拶を述べた。

次に講師を代表して、桑田秀子主任講師が「北海道から沖縄まで多くの方に参加いただき、7回目の研修会を実施できますことを嬉しく思います。3日間で指導法を学んでいただき、実のある研修会にしたいと思います」と挨拶を述べた。

開講式後、『中学校武道必修化指導書』武道編DVDの視聴が行われ、続いて松尾牧則講師による特別講演「学校教育における武道」が行われた。主な内容は以下のとおり。

- ①弓道の特性として、3点あげられる。構造的特性(対人競技ではなく個人的技能を学習する、身体接触がなく、体格差が影響しない)、機能的特性(的に当たる楽しさ、矢を放つ爽快感、遊びの要素を取り入れて、技能を習得できる)、効果的特性(心・体・弓の調和、自己を省みる習慣が身につく)、いずれも学校教育において取り入れやすい特性といえる。
- ②授業を行う上での課題として、用具の問題がある。特に楯は高価であり、慣れるまで時間がかかるので、軍手を代用しても授業では問題ない。弓道部のある学校では、部員を授業協力者として活用するのもよい。
- ③全国の中学校で弓道授業を行っているのは20数校であり、弓道部も少なく、地域差が大きいのが現状である。高校では部活が非常に盛んで、20年以上



桑田主任講師による指導



ひも弓を使って動作を学ぶ

6万人をキープしている。部活動人口が減少している中、特筆すべきものである。

- ④課題として、若い世代の継続率をいかに上げるか。道場のしきたりや独自のマナーなど、個人競技の良さが生かされていないと感じる。自由な稽古と安全性のバランスが大事である。
- ⑤正しく弓道を学び、正しく後世へ伝えるため、何をすべきか考えなくてはならない、時代の変化とともに弓道のあるべき姿を考えていきたい。

次に、松本代志博講師が翌日からの実技研修に備えて、「弓具・射法八節」について、資料と映像を示して解説した。

続いて8班に分かれて、グループディスカッションが行われた。「中学校における弓道授業」「部活動運営」「卒業後いかに継続させるか」「ハラスメント・安全対策」の4つのテーマについて、各班が与えられたテーマに沿って検討・協議を行い、各班の代表者が現状・課題・対策を発表、それぞれに対して、講師が講評を述べる形で進められた。

▼2日目(2月16日)

午前7時から参加者全員で大道場の射場設営を行った。朝食後、工藤純弥北海道函館盲学校教諭による中学校弓道授業実践例発表が行われた。

必修化以前から剣道を実施していたが、技能の向上、攻防を楽しむことが難しかった。3年前に本研修



グループディスカッションの後に各班が協議内容を発表

会に参加したのをきっかけに盲学校でも弓道を指導できると確信し、学校からも弓道に対する理解を得て弓道授業が実現した。全日本弓道連盟から弓具の寄贈、学習内容についての指導を受け、2年目が終了した。盲学校生徒にも弓道が取り組みやすい点として、4点をあげた。①道具がわかりやすい。非対称であり、持つ位置がわかりやすい。②的中した音を理解し、結果がわかりやすい。③射法八節は一連の決まった動きであり、わかりやすい。④的が動かない。盲学校生徒が親しみやすいターゲット型の競技である。

最後に「来年度以降も継続し、生徒自らが成長を感じられるような指導内容と、単元構成を工夫しながら取り組んでいきたい。そのためにも自身の弓道の技術、指導力を高める努力が必要である」と結んだ。

続いて、「初心者・称号者」「級・初段・二段」「三段～五段」の3班に分かれて、大道場と弓道場で目的別研修が行われた。

「初心者・称号者」班は増渕敦人講師、「級・初段・二段」班は松本講師、「三段～五段」班は高橋文彦講師が指導にあたり、参加者の技量にあわせた研修が行われた。「初心者・称号者」班は、弓具の取扱いから、ひも弓の使い方、射技研修と段階を追って指導がなされた。増渕講師は、『とりかけ』の重要性を強調し、矢筈を削った矢を使用する指導が効果的であることを提示し、正しい『とりかけ』を身につけることを子供たちに徹底してほしいと繰り返した。

午後も引き続き、目的別研修が行われ、予定時間終了後も、多くの参加者が補習として担当講師の指導を受けた。

▼3日目(2月17日)

午前6時30分から班別に大道場と弓道場で早朝稽古が行われた。朝食後、前日に引き続き目的別研修、最後は大道場に全員が集合し、桑田主任講師、増渕講師、松本講師による特別演武が行われた。

閉講式では、桑田秀子主任講師による講師講評が行われ、全日程を終了した。